を利用することもできる。

臨床教育に必要な病院病床数は，学生数に対応するが，学生1人に3ないし5の病床数が必要だとすると，1学年100人の学生をもつ（3年の臨床教育）医学校では，900～1,500床の病院が必要だということになる。

図書と定期刊行物（略）

職員とカリキュラム（略）

B. Abel-Smith 他：Can We Reduce the Cost of Medical Education？ *WHO Chronicle*. 26 (10). 1972, pp. 441～450.

（前田信雄　国立公衆衛生院）

# 西ドイツの疾病保険電算データ処理

1972年8月，地区疾病金庫全国連合会およびキール地区疾病金庫主催の「疾病保険における電算データ処理」をテーマとした国際シンポジュウムが開かれた。興味深いテーマであったため，多数の参加者を得た。西ドイツ国内の疾病金庫，社会保険団体，連邦労働社会省の代表のほか，オーストリアなど外国の代表も参加した。

まず，地区疾病金庫全国連合会の代表が，「公的疾病保険における電算データ処理の将来的意味」と題する話をした。同代表は，昨年ケルンで開かれた地区疾病金庫の疾病金庫会議での討議を基礎にして，同連合会の電算データ処理の活用に関する考え方を展開した。それは，疾病保険のための電算データ処理の可能性と有益性を詳細に説明し，かつ，終局的にはデータ・バンクおよび情報システムの組織化に至る自動データ処理の必要性を説明したものであった。また，1973年1月1日より年金保険および連邦労働事務所に関するデータも同時に得られる，疾病保険における新しい情報処理を，他の諸部門とのこのような面の統合への決定的な前進として評価したものであった。

電算データ処理を地区疾病金庫の領域にどのように応用するかという問題は，すでに準備されていた。従来から電算データ処理の活用の必要性は強く感じられていたが，一部の大規模疾病金庫しか導入の可能性がなかった。しかし，ケルンの地区疾病金庫会議以来とくに要請が高まって，いまやすべての地区疾病金庫が計算センターに参加することによって，電算データ処理の活用の可能性がでてきた。数年中に統一的データ処理基準が確立されることになろう。地区疾病金庫全国連合会の代表は，情報システムに必要なプログラムをまず手がけなければならないことを強調した。

しかし，同代表の話に対する反応からする

と，地区疾病金庫全国連合会の組織的考え方に対しては必ずしも個々の地区疾病金庫の代表の同意を得ているという感じはしなかった。なかには，計算センターの設置の必要性を否定し，個々に電算データ処理を導入することを主張する意見もあった。だが，大勢の意見はほぼ同連合会の考え方を認めるものであった。

会議の第2日目は，キール地区疾病金庫等の電算データ処理の実際が紹介された。そこでは，公的疾病保険の近代化が電算データ処理によってどのように行われうるかが示された。そして，特別の場合には他の疾病金庫への拡張もできる個有の電算データ処理の将来像が画かれた。シュレスビッヒ・ホルシュタイン州の地区疾病金庫州連合会の代表は，同州の22の地区疾病金庫が共同データ処理をすることを決めている旨明らかにした。

また，キール地区疾病金庫に新しく設置された電算データ処理装置であるＩＢＭ370—135が希望により公開され，その機能について説明が行われた。

第3日目は，「社会保険と情報連合」と題するテーマが取上げられた。これは，電算データ処理における最近の諸問題を取扱ったもので，十分能率的でない電算データ処理装置による広範な業務処理がもっか一つの隘路になっていることが明らかにされた。そして，これを解決するために，必要なデータ連合が一つの課題として指摘された。そのほか，データ保護の問題が取上げられた。

ところで周知のとおり，新たな情報処理により，疾病保険，年金保険および連邦労働事務所に関するデータが得られることになった。このデータの供給者は雇主である。雇主にとってこのデータ供給の仕事をできる限り軽減する必要がある。そこで，電算データ処理の導入ということも考えられている。ある代表は，新しい情報処理の原則—DEVO（データ収集規則）—を提案した。

第4日目は，キール大学教授グリーサー氏が，「われわれのデータはいかに社会医学的に評価しうるか」という問題について論じた。また，同氏は，データ保護の問題についても言及し，包括的なデータ保護の重要性を説いた。

最後に，オーストリア社会保険保険者中央会の代表が，「オーストリア社会保険における中央情報収集化」と題する講演をした。それによると，オーストリアにおいても同じ課題があるとのことであった。

このように公的疾病保険における電算データ処理の問題は，いまやきわめて深い関心をもたれており，近いうちに電算データ処理の一般化も実現するものと思われる。電算データ処理の活用化によって，疾病保険はよい方向に進むことになろう。その意味でシンポジウムは有意義であったといえよう。

Heinz, Karl, EDV in der gesetzlichen Krankenversicherung, *Die Krankenversicherung*, Oktober 1972, S. 258—261.

（石本忠義　健保連）